

# 日本台湾学会報

第20号

2018年7月

## 目 次

### 特集「シンポジウム 転型正義と台湾研究」

大いなる幻影に抗して——台湾の市民社会による転型正義への試み

..... 呉 豪人 ..... ( 1 )

コメント 「転型正義」 / 「転型不正義」からの問い

..... 北村 嘉恵 ..... ( 30 )

コメント ヘゲモニーに抗する研究の共和

..... 森 宣雄 ..... ( 38 )

### 論 説

台湾と樺太における日本帝国外地農業試験研究機関の比較研究

..... 中山 大将 ..... ( 45 )

移民工文学賞という試み—包摂と排除の狭間で—

..... 倉本 知明 ..... ( 67 )

台湾における高学歴化と不完全就業—宿泊業・飲食サービス業を中心に—

..... 國府俊一郎 ..... ( 82 )

日本における台湾「市民社会」の伸張と受容—仏教系民間非営利組織を事例として—

..... 今井 淳雄 ..... ( 104 )

台南の「救世主」となった「日本人」—湯徳章英雄説の検証と分析—

..... 天江 喜久 ..... ( 126 )

### 研究ノート

台湾地方自治連盟による1933年の朝鮮地方自治制度視察の意義  
——楊肇嘉の構想する台湾地方自治制度の参照として

..... 野口 真広 ..... ( 148 )

書評 ..... ( 164 )

エッセイ 台湾研究を始めるということ ..... ( 211 )

『日本台湾学会報』創刊号～第20号総目次 ..... ( 214 )